三条ロータリークラブ週報 No. 25 1995. 12. 27 No. 1924

# 真心の行動
# 慈愛の奉仕
# 平和に挺身

1995—96年度国際ロータリーのテーマ

ハーバート Gブラウン
国際ロータリー会長

第2560地区
ガバナー——重田政信
会長——石橋育於
会長エレクト——捧賢一
副会長——五十嵐総一
幹事——松谷昊吉
副幹事——五十嵐昭一
SAA——清水良一
副SAA——菊池渉

例会日——毎週水曜日 12：30～
例会場及び事務局——三条市旭町2—5—10
三条信用金庫本店内
例会場——TEL 35—3311
事務局——TEL 35—3477
FAX 32—7095

| | |
|---|---|
| 本日出席会員数 | 80名中 63名 |
| 先々週出席率 | 93.42 % |
| 前年同期出席率 | |

**ヴィジター**

三条南より 長谷川晴生さん
三条北より 中條耕二さん
大野新吉さん
山本 賢さん
本間建雄美さん

**先週のメークアップ**

12／21 燕へ 外山一郎さん
12／25 三条南へ 近藤雄介さん
12／26 三条北へ 渋谷正一さん
高橋政志さん

## 会長挨拶　石橋会長

本日は三条南クラブより長谷川さん、三条北クラブより中條さん、同じく大野さん、山本さん、本間さんよおこそおいで下さいました。最後までごゆっくりお過しいただきたいと思います。先週の例会はクリスマス忘年親睦会で楽しい一時を過ごしました。親睦委員会の皆様には御苦労いただきありがとう御座居ました。昨日一昨日と今冬一番の寒波にみまわれ交通が麻痺した様であちこちで大変苦労されており、又荷物の輸送も一日、二日遅れの延着で魚市場等大変困りました。明日からは天気も回復するようですので、年末、年始の家庭の食卓に支障の無い事を願うものです。

さて重田ガバナー年度に入り前期を終ろうとしております、これまで皆様より暖かい御理解と御支援をいただきありがとう御座居ました。今後共よろしくお願い申し上げます。又来年は皆様にとって良い年であります事を心から祈念申し上げ挨拶を終ります。

## 幹事報告　松谷幹事

◎1月31日(水)の例会は例会場使用できませんのでＶＩＰに移動します。よろしくお願い致します。

◎重田ガバナー事務所より
社会奉仕委員長会議のご案内がとどいております。
　と　き　　1996年1月21日(日)
　　ＡＭ11：30～
　ところ　　新潟東映ホテル

◎カルガリ国際大会出席の一次登録締切1／10となっておりますので早めのお申し込みをお願いします。

◎1月23日北クラブ10周年記念チャリティーコンサートのチケット20枚届いておりますので御買上のほどよろしくお願い致します。

## 1月のお祝い

**◎会員誕生祝**

2日　大谷幸平さん
11日　五十嵐昭一さん
11日　五十嵐晋三さん
20日　小越憲泰さん
23日　丸山行彦さん
23日　池田俊一さん
27日　樺山仁さん
27日　野水文治さん

**◎夫人誕生祝**

1日　林　一枝さん（光輝）
1日　三堀和江さん（正純）
2日　杉野美智子さん（奎司）
5日　田中眞智子さん（昭）
11日　山本晴子さん（福七）
13日　岩井康子さん（数央）



14日　鈴木澄子さん（宗資）
16日　山田幸恵さん（富義）
18日　松谷ムツ子さん（昊吉）
19日　五十嵐芳江さん（力）
20日　小林恵智子さん（英雄）
27日　渡辺美代さん（勝利）
31日　佐久間實子さん（勝敏）
31日　小柳由紀子さん（直人）

**◎結婚記念祝**

7日　捧　賢一さん
14日　長谷川有美さん
26日　岩井数央さん

## ニコニコＢＯＸ

大野新吉さん（三条北ＲＣ）
年の瀬を迎え初のメークアップです本年の一年間を感謝して……。

石橋さん
重田ガバナー年度に入りましてあっと言うまの上期を終ろうとしております。これまでのあたたかい御理解と御支援に感謝申し上げます。

松谷さん
どうやら上半期が終りました。下半期もよろしくお願いします。

清水さん
いつの間にか半年が過ぎていました、つたないＳＡＡでしたが来年もよろしくお願いいたします。会員の皆様、良いお年をお迎え下さい。

三堀さん
風邪の為、不調です。卓話は更に不調でしょう。娘が希望大学に合格しました、ひと安心できます。

佐野さん
三堀会員の卓話を楽しみにしています。

高橋(政)さん
三堀さんの卓話に期待して。

五十嵐(総)さん
クリスマス忘年例会には会員の暖かいご協力のもと多数ご婦人のご出席いただき、ゲームを初め、大変楽しい例会が出きました事ありがとうございました。

上木さん
先週の夫人同伴の集い、家内と楽しく過ごさせて頂き、有難うございました。

藤田(総)さん
寒くなりました。久し振りのホームクラブ出席です。今年もありがとうございました。

渡辺(宏)さん
お陰様で本年もなんとか無事ですごしました。最近ニコニコボックスなまけて居ました。

中村さん
皆様方にとって今年はどんな年だったでしょうか？私は今年でやっと「ヤク」

がぬけます。

五十嵐(力)さん

三条商工会議所の会報で海外視察の所感を1ページに亘り書かせて頂きました。ご一読下さい。

榎本さん

御夫人同伴の夜例会実施に当り、親睦委員会の皆様の御苦労に感謝して。

渡辺(弘)さん

先日のクリスマス忘年会に夫婦で参加させて頂き、ありがとうございました。

平原(信)さん

今年はいろいろありましたが来年は七転（今年）八起（来年）の年でありますように。

高橋(一)さん

先日の忘年会の時のツーショットをいただきました。

高森さん

忘年会が楽しかったので良い年でした。中座させて頂きます。

荻野さん

先週の忘年親睦会では、カラオケやゲームにご協力頂きまして有難うございました。

渋谷(秀)さん

先週の有馬記念取らせていただきました。ありがたいクリスマスプレゼントになりました。

広岡さん

会長、幹事さん今年中大変ご苦労様でした。来年も頑張って下さい。

細井さん

私も有馬記念取りましたので。

小林(正)さん

都合に依り早退させていただきます。

杉野さん

今年もお世話になりました。ありがとうございました。心からお礼を申し上げます。

五十嵐(昭)さん

いよいよ今年もいろいろありましたが終りになりました。よい年を迎えられますように。

小柳さん

今年もいろいろ御世話に成りありがとうございました。

佐々木さん

皆々様よいお年を迎えられますように……。

内山(辰)さん

1995年の最後の例会になりました来年こそ良い年で有ります様に。

古澤さん

今年もお世話になりました。良い新年を迎えたいものです。

樺山さん

今年は御世話様に成りました。

五十嵐(寿)さん

一年間、お世話になりました。

斎藤(弘)さん

一年間、お世話になりました。

船越さん

一年間お世話になりました。良いお正月をお迎え下さい。



丸山さん

来年もよろしくお願い致します。

山浦さん

一年間、お世話になりました。

12月27日分

¥43,000

## 卓　話

### 何故お正月に餅を食べるのか

三堀正純会員

私達日本人は、餅を食べて新年を祝いますし、おめでたい時には赤飯を炊いて祝います。どうしてでしょうか？

それを知るのは、私達日本人はどうして米を食べるようになったかを、先づ考えなければなりません。

当然の事ながら、すべて人の食べる物は自然界の中にありました。草や葉、木の実、鳥獣、魚貝類など、これらが食べられるものと知った時から、人々はそれらを増やすための努力を始めたのです。

米も自然に自生していたものです。勿論、今私達が食べる米そのものではなく、もともと自然に生えていた「禾」（ワク）と呼ばれる稲の原種でした。

稲の自然生である「禾」の生育条件は気候が暑熱で空気が湿潤である事で、それはモンスーン地帯に備わっていました。従って、稲は日本に自生していたのではなくて、モンスーン地帯から日本へ伝えられた訳です。

かつて自然生の稲の原産地は、インドのガンジス川下流のアッサム地方だと言われていました。しかし、野生の稲の発生条件はアッサム地方だけとは限りません。更に、現在の米を大別するに、インディカ種とジャポニカ種に二分されます。インディカは穂が長く粒も長い大型で、熱暑の地から生まれたもので、低温に弱い稲です。ジャポニカは穂が短かくて、粒が小さくて太く、比較的低温にも強い稲です。この両種は遺伝上、交配して生育させ新種を得るのは難しいものですから、かなり明確に独自の進化を辿る事になり、今日でも大別される訳です。勿論、日本の米はジャポニカです。この原種は一体何処で自然発生したのでしょうか？

野生の「禾」の発生条件は、実は中国にもありました。中国農業科学院の調査に依れば、雲南省を中心とした亜熱帯モンスーン地帯に「禾」が自生している事が判明したのです。古代の中国人が、こ

の「禾」を育て米として食物にしていた事実は明白で、雲南の米は正しくジャポニカ種なのです。

日本の米は雲南から来た。これを証す手掛りは稲の伝播ルートにあります。更に、稲作技術そのものや、稲作に付随する文化の伝播にあります。

かつて米の伝播ルートには三つの説がありました。

①南回りルート＝南西諸島から島づたいに伝わった。

②直接渡来＝長江下流から直接伝来。

③北回りルート＝山東半島から陸伝いに北上し、朝鮮半島から日本へ渡った。

と言う三つの説ですが、浙江省の河姆渡（かぼと）遺跡の発掘で大きく変わりました。河姆渡遺跡は今から約５千年前の遺跡で、大量の炭化米と農耕具である石斧（せきふ）が出土し、水稲耕作が行われていた事が判明したのです。この石斧の発見こそ米の伝播ルートを決定づけるものでした。つまり新石器時代初期の河姆渡の石斧が、山東半島で発掘された石斧、朝鮮半島の石斧、日本で発掘された石斧と、石斧の進歩の段階を追って、次々に発見されている事から、今日では北回りルートが定説になっています。

稲作の伝播は栽培技術のみならず、稲作文化をも含めて伝わったと考えるのが妥当です。「日本人は餅を食う」この食文化は日本列島で自然発生したものなのでしょうか？1991年、雲南の西双版納に入ってみました。

景洪から車で１時間半、曼听（マンチエン）村は戸数86、およそ450人のタイ族の集落です。稲作を中心とした典型的な農村で、ここでは陸稲も水稲も総てモチ米でした。それも赤いモチ米です。赤米は玄米のヌカ層の部分に赤紫色の色素を含んだ米で、実は日本でも明治の頃まで、あちこちに分布していた事が知られています。

食事の様子を見てみましょう。ここでは様々な形態のモチ食があふれています。モチ米を蒸したオコワ、搗いた餅、チマキが一般的な形ですが、モチ米の馴れずしもありました。普段はオコワですが、蒸し方は日本のそれと全く同じです。薪を焚いて五徳の上に鍋を置き、丸太をくりぬいた筒に洗った米を入れて蒸すもので、正しく日本の蒸篭そのものでした。餅は小さな臼と短い堅杵が使われ、片手でトントンと搗いていきます。搗きたてをそのまま食べますし、串に刺した餅を火にあぶって食べる事もあります。チマキは細長い円錐型で、越後の三角型とは異なりますが、作り方は全く同じです。西双版納での食体験、何千キロも離れた異国にありながら、何故か懐しい日本の食の原点を見る思いがしました。

雲南に起源した稲がアジア各地に伝播し、最終到達地の日本に到来した弥生時代の米は赤いモチ米が主流だった筈です。そして、狩猟採集の民族が稲の栽培を知ったその頃、米は大変貴重な食物でした。米は何かの慶事祝事がなければ食べる事



が出来なかった訳です。

祭りが来れば米が食べられる。その米は赤いモチ米、蒸せばオコワで搗けば餅で、私達がお正月に餅を食べ祝事に赤飯を炊く風習の原点はここにあるのだと思います。

日本に定着した米に異変が起りました。白い米の登場です。白い米は突然変異で誕生しました。突然変異に依る種は特に強い性質を持っていますから、従来の赤い米を淘汰して行きました。そして白い米は収量も多く、更に、人々は純白の米に魅力を感じた事から、赤い米はすっかり姿を消してしまった訳です。

熱帯モンスーンで自然発生した稲は、数千年もの壮大な時間をかけて日本に伝わって来ました。農耕技術はもとより米食文化そのものを日本人は吸収したのです。そして最も重要なのはコメ食をとり入れた私達の祖先、大和民族の宗教を決定づけた事です。コメ食は民族によって違って来ており、社会や文化との関わりが深いのですが、それらのもとになる宗教との関わりが文明をも位置づける大きな要因となっています。

コメを食べる民族は農耕儀礼を通して宗教との関係を深めました。耕作をする前に、必ず神や精霊を祀る。山の神、村の神から来てもらって、それらの神の協力を得て稲を耕作し、収穫した場合にもやはり神を祀り感謝の行事を行います。更にそういう農耕儀礼をもとにして、一年間の農耕生活のリズムが決まり、農作業のやり方とか、村の人達との生活の仕方を決めて行くものです。特に水田稲作の場合にはきわめて明確に作られ、そうしたものが、日本の文化や社会を作って行くもとになっています。

日本人はかつて、国の力（加賀百万石）や船の大きさ（千石船）まで米の量で測りました。人間だけではありません。スズメは米の糊を食べて舌を切られ、穴の中のネズミはころりんと転がるおむすびのお礼に打ち出の小づちをプレゼントしました。神様まで米俵にまたがっている瑞穂の国、それが日本です。

南の暖かい地方にしか育たなかった稲を北海道の北端まで引っぱりあげ、更に、日本で品種改良された稲は、中国東北三省に渡り、今ではロシア極東のハンカ湖周辺でも栽培されています。稲の伝播には壮大なロマンが秘められています。

米百万トン増産運動から、米あまり米ばなれによる減反対策、安い外国米の流入と、日本の農政は「ノー政」と言われる程、猫の目の様に変わって来ました。平成７年には「食管法」まで改められ、「米穀通帳」や「主食販売所」はもはや死語になりました。

減反政策は今も続いています。日本の農村の現状はどうでしょう。後継者不足、大規模集約化……等々。かつて、のどかなたたずまいを見せた農村は確実にその姿を変えています。村人同志が「結い」（ゆい＝労力をお互いに貸借しあう事）を結び、共同で田植えや稲刈をしていた

風景は見られません。そして、村のお祭りも若者不在で幟旗すら掲げる事が出来ないのです。

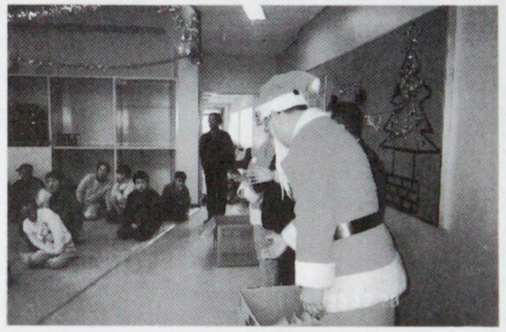
このまま時代が進めば、日本各地に残る民俗風習を失うばかりか、私達日本人の精神構造、つまりアニミズム（自然崇拝）に基いて育まれて来た日本人の心、いわゆる日本人固有の価値観や、物の考え方までをも変えてしまうのではないでしょうか？言い変えれば、私達日本人は近い将来「心の故郷を失ってしまう」という事になるのではないでしょうか？

お正月に餅を食べる風習も、赤飯を炊いて祝事をすることも、今に無くなってしまうのではないかと、大いなる危惧を抱かざるを得ません。



## ――いからしの里クリスマス――

平成７年12月30日



# わが家・色・いろ

樺山　仁会員

## おとうさんってこんな人

♣わが家について

現在は夫婦二人の静かな暮しです。長女は三条市内で別に世帯を持ち、次女は東京で学生生活を送っております。

♠おとうさんへの要望

現在迄特に大きな病気もせず過して来れましたのでこれからは一層健康に気をつけて人生悠々の心構えで過して欲しいです。

♡うちのおとうさん

物事にくよくよせず前向きに物事を考える人で私や子供達の相談には冷静なアドバイスの出来る人です。

例会案内

| | | |
|---|---|---|
| 三条ＲＣ | １月10日例会 | 新春例会 |
| | １月17日例会 | 卓話　内山辰策会員 |
| | １月24日例会 | 卓話　細井増雄会員 |
| 三条南ＲＣ | １月15日例会 | 休会（祝日） |
| | １月22日例会 | 卓話　佐藤英一会員 |
| | １月29日例会 | 新年会　於 魚　作 |
| 三条北ＲＣ | １月16日例会 | 会員卓話 |
| | １月23日例会 | 10周年記念事業 三浦克次コンサート |
| | １月30日例会 | 新年会　於 さどや |